

し珈琲、カカオは南方より、砂糖はニルグア地方より輸送し來る、此の他附近の皮革、毛皮、藍、紅木等の集散地なり。

(2) ツカカス フアルコン州の海港にして、プエルトカベロの北西二十五哩鐵道、アロアに通ず。アロアはトリエヌト灣より三十哩、同名河畔にある銅鑛の中心地なり。

(5) バルキシメト 元とヌエバセゴビアといひララ州の首都にして人口四萬を有し、カラカスの南西一百六十五哩、海拔一千七百尺の高原に立ち、州廳、寺院、學校、商館あり。附近は氣候溫和、地味豊饒にして、農産物に富むが故に此の地は其商業の集散地に當る、市街は一五五二年に建設せしか、一八一二年の大地震に大破損を受けたり。鐵道は、ゾアコを経て、アロアに通じ、ツカカス港に貨物を送る、南六十哩に、トクヨの小都あり、砂糖の産地なり、其南西四十哩に果實の名産地たるツルジロあり、其南東五十哩に、ザモラ州の首都、グアナレあり。

(12) メリダ ロスアンデス州の首都にして、首府の南三百十哩、マラカイボ湖斜面のチャマ河畔に在り。人口二萬を有し、寺院、學校、羊毛工場あり、貨物は河を降り鐵道によりカルロスよりマラカイボ湖に送る、市街は一五五八年建設に係り

- (11) Guanare
- (12) Merida
- (13) R. Chama
- (14) Carlos

- (6) Nueva Segovia
- (7) Lara
- (8) Duaco
- (9) Tocuyo
- (10) Trujillo

- (1) Nirgua
- (2) Tucacas
- (3) Falcon
- (4) Arca
- (5) Barquesimeto

- (9) Manzanares

- (5) Nuevo Barcelona
- (6) Guzman Blanco
- (7) Cumana
- (8) Fort Boca del Rio

- (1) San Cristoval
- (2) Coro
- (3) Santa Ana de Coro
- (4) Barcelona

同一二年の地震に大害を受けしも今は再興して市況倍舊せり。南々西九十六哩にサンクリトスバルあり、一七五六年建立せる所、クチラ州の卓狀高原に在り、一七八五年震災を被りしも今は人口二萬の都會となり、州の首都たり。

(2) コロ 一にサンタアニャデコロといひ、元とベネズエラと稱せり、フアルコン州の首都にして海港なり、地はバレンシアの西北西一百五十五哩、大陸とバラグアナ半島とを連ねたる、地峽の内側に位す、近時貿易衰微せり、人口一萬あり。

マラカイボ ゼリア州の首都にして人口五萬を有し、同名湖と灣と通ずる海峽の西岸(南緯七十一度三十八分、西)に臨み、港内深く、旋船至便にして、此の國最要の一港にして將來有望の地たり。市内に寺院八、學校、病院二、煉瓦、石輪製造所あり、珈琲輸出地として殊に著名なり、尙コバイバ、木材、皮革、砂糖等を出す、氣候暑熱なるも不健康ならず。

(4) バルセロナ ヌエババルセロナともいふ、ベルムデズ州の首都にして同名灣の東岸(北緯十四度四十分、西)にあり、人口二萬を有し、砂糖の産地として重要なり。四哩半に、グズマンブランコの新港あり、廣濶安全なり。

(7) クマナ ベルムデズ州の一市、フォルトポカデルリオとも稱す、マンザナレ

ス河口(北緯六十度二十四分六秒)にあり、高地に砲臺あり。此の地震災多く大層なし、牛及び薫肉、醃魚、カ、オ、珈琲を出す、市街は新大陸に於ける歐洲人最古の都會として、有名なり、即ち一五二三年デエゴ・カステロン(Diego Castellon)之を建つ、一八二三年の革命前人口三萬なりしが、八九年に一萬に減じ、現今約二萬あり。

⁽¹⁾カラハノ 前港の北東五十七哩(北緯三十度四十分四秒)に要塞あり、燈臺港頭に立ち、港内甚だ安全なる防波堤に擁せらる。

⁽²⁾シウダド・ポリバル 或はアンゴスチラといふ、ポリバル州の首都、オリノコ河の右岸に臨み、海口より三百七十三哩、水運の要衝に立つ。本港と河口間は溯航に二十日乃至二十五日を要するも、歸航には五日乃至十五日にて足る。輸出物は内地産物たる、棉、藍、煙草、珈琲、家禽等なり、市街には中央寺院、税關、病院、學校等あり、人口二萬を有し、將來内地開拓盛なるに及ば、最も發達す可き地にして、恰もアマゾン河中流のマナオスに勢鬪たる可し。

⁽³⁾カラボゾ オリノコ中流の北支流グアリコ河畔に立ち、首都の南々西一百二十哩にあり、交通至便なるも、四近低原にして、雨期洪水氾濫す。グアリコ州(今はザルマ)の首都にして、僧正邸、寺院、學校、官公衙あり、首府間は電信を通ず。

- (1)Carapano
- (2)Ciudad Bolivar
- (3)Angosture
- (4)Calabozo

⁽¹⁾マルガリタ島 一にヌエバ・エスバルタと稱し、大陸海岸のクマニヤの北三十哩(北緯六十一度四)の海中に位し、島頂は西端隆起し、中央は稍低く、地峽を以て終る、海岸は乾燥不毛なれども、内部は豊饒にして、玉蜀黍、砂糖、珈琲、棉及び甘蔗を産す、又家禽、家畜を飼養し、製鹽漁業も亦盛なり。本島の名稱は實に眞珠(パール)即ち(ラ)典語のマルガリタ(Margarita)に起因せるものにして、昔は眞珠採取頗る盛大なりき、製造品は主に綿織下服及び鈎床なり。⁽²⁾アスンシオンは島の主港にして、南海岸に在り、附近の海岸及び英佛領西印度諸島と貿易盛なり、マルガリタ海峡は約二十哩あり、歐洲及び北米船舶之を通じてクマナ、バルセロナ若しくはラ・グワイラに到る。本島は一四九八年コロンブスの發見に係る。

ロケス群島 エル・グラン・ロケ、サルトキ、グレート・スパーキー及びピロングキー等の百餘島より成り、食鹽、磷酸鹽及び鞣皮を産す。

- (1)Margarita
- (2)Nueva Esparta
- (3)Cumana
- (4)Asuncion

フォークランド諸島 (Falkland Is.; Malouins (F.); Malvinas (S.))

南米大陸の南東海洋中に群在する二大島及び一百餘嶼の群島より成り、我が同盟國の南米領土中重要な位置を占む。

位置度表

マゼラン海峡の東方三百哩、モンテビデオの正南二千五百五十哩、南緯五十一度より五十二度四十五分、西經五十七度より六十一度四十六分の間に在り、東西二大島及び一百餘島の群島より成る。此の位置たる南米の最南端マゼラン及び角岬を廻航する船が暴烈危険なる航海を遂ぐるに當りて其の修繕及び準備等の爲め最も重要な碇泊地たり。

東島は長さ九十五哩、幅四十五哩、其面積三千方哩にして之れを最大島とす。

西島は長さ八十哩、幅二十五哩、其面積二千三百方哩、其他の群島は合計面積一千二百方哩あり、其最大島はエドナル島にして、長さ十六哩、幅八哩とす。而して全群島の總面積は六千五百方哩あり。

地貌

兩大島は島勢北東より南西に向ひ、相並列し其の間、長さ四十五哩、幅十八哩乃至二哩半のフォークランド水道に依りて相隔たれり。

東島は中央縱れて南北二部に分れ、其結合點は僅かに一哩乃至半哩の地峽を有す、地表概ね荒蕪低夷にして、牧地沼澤其間を領し、波狀平原の間の谷地には淺流小河流曳す。一般の外観無趣味、北部は暗緑褐色のキックハム高地東西に走り、丘陵に沿ひて白色硅岩脈露出し、其兩側の柔軟なる岩石は剝削零爛せらる、東島の最高をアスポルン山の二千二百四十尺とす、島の四周は峽江岬灣甚だ多し。

西島は東島に近く更に丘陵にして、主山はホルニビー丘陵にして、南北に走る、ホワード港の後方にアダムス崖あり、海拔二千三百十五尺、全群島の最高點にして、黝黒色の硅岩は高處に露出し、粘板岩は低地に在り。島の西海岸は東島よりも凹凸夥しく、群嶼所在に散布す、其の最大なるを南西端なるエドナル島とす。

地質

群島の地殼は古生界の岩石より構成せられ、下部泥盆或は上部志留利亞系に屬す、岩石は多少變質し、皺曲作用を受けたり。低地は柔軟なる粘板岩及び砂岩にして、峯頭は堅硬なる砂岩なり、其間に白色の硅岩秀出す。礦物の埋藏は論ずるに足らず、僅かに方鉛礦の少量を含む、地瀝青は粘板岩中に在り、石英岩中には石炭層を挟在すとの説あり、此の群島の河谷には碧白色の輝岩散布し、石英の二尺乃至八尺或は十尺より二十尺に達する大塊あり、岩石の裂罅に

生じ恰も氷河の如し、之れを石河と稱す、是等は河水の補助を藉らずして、丘陵より其河道を作り、低地に及ぶものにして、地學上の最も趣味ある現象なり。

氣候

氣温單調にして、二、夏月中の平均は八度半乃至十五度にして、二冬月間の平均は零度一度乃至三度とす。天空概ね陰霧に被はれ、概ね細雨なれども、時に豪雨來り、一ヶ年の二百五十日は雨天とす、然れども雨量僅かに、四百二十耗に満たざる年ありて、年平均二千百耗なり、最大多雨の年は二千六百耗に及ぶことあり、風は西風最も多く晝間よりも夜間、冬季よりも夏季に烈しく、屢々暴風來襲す。夏季は氣温低冷に且つ雲霧多きが爲め、小麦成熟せず、大麥燕麥は辛じて結實す。

天産物 植物

此の諸島は地形上既に南米大陸架上に位し、其構造根本的にパタゴニアの一部たり。而して其植物も亦大陸の南極性植物と同一系統に屬す、此島の最大植物は羊毛狀の美麗なるラゲキード (Ragweld Senecio Condicans) にして高さ三四尺達す。半灌木性のペロニカ (Veronica Delussats) は西島にのみ産す、東島北部の高原地即ちキャンブ又はキャンボ (Camp or Campo) は泥炭甚だ多く、年代頗る古き厚層より成り、床底は甚だ緻密となりて、地溼青に化せり、泥炭中に

は僅かに細胞植物を含み、インペトリム、インペトリム (Empetrum Rubrum) の根莖あり、此の地にて、ディッデルデー (Diddle-dee) 漿果と稱す。マールンヌ、メントラリア (Myrtus Minularia) あり、小纏絡木、イートン樹にして其葉は茶に代用し、飼羊家之を牧草に供す、カルサ、ア、メン、ツラタ (Calcha Appendulata) あり、沼澤に生ずるの金蓋草の矮小種なり、又菅類數種 (Astelia Pumila, Gaimardea Australis & Bogt Kavie) の三種等あり。此の地一帯の野草には茅類 (Pussock-grass) 及び鳳仙花類 (Balsam fog) 繁茂して、海岸に及び六七尺乃至十尺の高さに叢生するを以て、牛馬の牧草として最も適料なり、又葦草、席及び籠類を作る原料に供す。

動物

野狐は唯一の特産なりしが近年殆んど滅せんとす、牛馬は野生的に生育するも元來歐洲より輸入せしものなり、豚羊亦然り、野兎頗る多し、陸鳥甚だ少く過半は火地島より來翔せしものなり。海鳥は甚だ多きも元植民の誘導せしものなるが如し、野鴨は種類多く野生す。

住民

全島の人口は一九〇一年の調査に於て二千四十三人 (男一千二百八十人) なり。一九〇六年には二千六十五人となり、一方哩の稠密度僅かに三一八出生率は一千人に對し二十七人、死亡率八人二三とす、住民は殆んど英人及

び南米人とす。教育は官立二校、羅馬舊教學校一校及びダルキンに一校、ダルキン・キャンプス(Darwin Camps)の一假校舎とす、外に官立校舎及び私設校舎あり、西島には巡廻教師三人、東島には二人あり、教育は現時強迫的となす。

産 業 殖民の産業は、牧畜を主とし、羊、牛、馬、豚を養ふ、牧場は飼羊數は七千、馬は一千頭、一九〇五年を養ふ、馬は三千頭、牛は四千五百頭、豚は一百頭なり。

商 業 外國貿易は全く母國との間に行はれ、輸出品は羊毛、皮革、獸脂なり、輸入品は食料品、衣服、木材及び建築用材、機械、鐵器とす、輸出額は百八十五萬圓、輸入額は六十五萬圓の間に在り。

政 治 全島は英國直轄地にして、政務は知事之を掌握し、立法及び行政の各議會之を輔佐す、陸海軍なし、唯現役志願兵團四十人と非役兵九十五人のみ。

財 政 歳入は關稅四萬九千圓(一九〇六年)及び直轄地の諸稅四萬五千圓より來る、歳出は遞信費三萬二千圓、土木費二萬六千圓なり。

交 通 入港船舶四十九隻、十二萬三千噸、出港船舶十五隻、十二萬噸、郵便は郵船のみにして、書狀及び端書四萬七千通、小包及び小荷物三萬七千個なり。母國間の交通は毎二週間に、大西洋汽船航海會社の汽船によりて行はれ、スタン

レト港を發着點とす。

沿 草

西印度諸島の發見が歐洲より東亞に達す可き新航路を發見せんとする企圖より來れる結果なるが如く、南米極南の此群島發見は北米の凍結せる北氷洋を廻りて東亞に至る可き北西航路を探究せん爲めに企計せる航海の結果なり。北氷洋探檢者ジ・デービス (John Davis) (英國デボンシャーの人) は一五八五年―一八七七年に於て、北氷洋を通過し、東亞航路を開かん爲め三回の探檢を企てしが其目的を達せず、更に南米迂廻航路を取り太平洋岸の反對側より通路の目的を完全せんとし、世界週遊家ドレークの効績を繼ぎ、トーマス・カビンデイスと協力したり。然るに私事に依て、南米バタゴニア海岸に於て同行と離れぬ。此の時一五九二年八月十四日、マゼラン海峡の東及び北海岸より一百五十哩許なる新發見群島に到る、之れ即ちフークランド島なり、九四年リチャード・ハウキンズ (Sir Richard Hawkins) は島の北岸に來着し遂に英女王に奏し、紀念として、ハウキンス新島 (Hawkins' New Islands) と呼ばんとす。一五九八年―一六〇〇年和蘭航海者セバルト・デ・エルト (Sebalt de Weert) 來航し、セバルト諸島と呼び、今尙ほ蘭國製地圖に此の名を留む、一六八九年船長ストロンク (Captain Strong) 巡航し二大島間の

海峽をフォークランド海峽と呼ぶ是れ其友人フォークランド卿(Lord Falkland)に因みしものなり。一七〇八年クリスマス祭日にウーデス・ロジャース及びダンヒリアの二人諸島を遠望せし外第十八世紀中葉迄は世人の耳目に達さかりき、四年アンソン世界週遊航海記を公刊し、南大洋中英船の寄航地なし、此の群島こそ其適地なりと世人に訴へしかば、英國政府之が探検隊を發航せんとするに當り、西班牙王之れに抗議し事止みぬ。六三年巴里平和條約の結果、佛人は加奈陀を失ひしかば、新領土を外に發見せんとし、大探検者ボウガン・ビールは此島に植民せんとし、翌年春アカデア人を東島、バルゲレー海峽内ルイス港に移植す、然るに再び西班牙の嫌忌を買ひ、六六年償金を得て之を止めき、當時、此島をノルスマロー・インズ(Nor's Malouins)又は西班牙の稱マルビナスと呼べり。佛人が東島に植民せし後、幾干もなく、英人は西島に植民し、六四年船長バイロン(Commdore Byron)を派し、六五年一月エグモント港に入る、此の港名は當時、水路局長エグモント男爵の名に因む。之れ西班牙と英國の戰因となり、兩國共に武裝聯隊を送れり、七一年西班牙遂に英國に讓與せしが、其の後英國が殖民の實なきを以て、ペノスアイルス共和國は一八二〇年全島を領有し、ルイス港を修復せり。然るに三一年

米國帆船捕掠せられしより米國軍隊は此港を破壊し、本島を占領せりと傳へらる。英國政府は三二年十二月二十日軍艦クリオ號を派して英國主權を回復し四年國民政府を設立し國王直轄地とす、總督をして之を統治せしめ確固たる英領となりぬ、翌年政廳をキリアム港に移しスタンレー港と改む、一八五〇年フオークランド島會社設立し殖民地貿易大に進歩し爾來今日の盛況を呈するに至る。

處 誌

全島の首府をポト・スタンレーといふ、人口九百十六人、政廳所在地にして、後方は高さ一百尺の斜面地にして之を越ゆればキアム平原となり、數哩に連亘す、家屋概ね方形の白色、碧色の板石を以て家根を葺き遠望美なり、學校及び會社あり、港内には船舶修繕所を設く。

ガルキン港は、東島の中央なるナイセゼウ峽灣の盡頭にあり、島中に於て首府に亞げる、第二の殖民地にして、一八三三年ビ、ガル、日のの航海中ガルキン博士の訪問せし地なり。東島の北東バークレー海峽内にルイス港あり、嘗て佛人の植民せし地なり。西島は一八六七年迄一人の植民を見ざりしが、政府は利益ある條約を以て、牧養地貸下令を發布せしかば、翌年全部民有地となれり、ステニス村は島中の良村なり、北西のパイロン海峽内にエグメント港あり、其の附近

明治四十一年十一月廿一日印刷
明治四十一年十一月廿六日發行

南亞米利加洲



著作者

發行者

代表者

印刷者

印刷所

矢津昌永
東京市日本橋區通三丁目十四番地

丸善株式會社

專務取締役

小柳津要

東京市牛込區市ヶ谷加賀町一丁目十二番地

藤本兼吉

東京市牛込區市ヶ谷加賀町一丁目十二番地

株式會社 秀英舍第一工場

東京市日本橋區通三丁目十四番地

丸善株式會社

大阪市東區博勞町四丁目

丸善株式會社大阪支店

京都市三條通鉄屋町西入ル

丸善株式會社京都支店

發行所

陸軍教授兼高等
師範學校教授 矢津昌永君著

高等地理

菊判假綴
逐次刊行

歐羅巴洲

紙數五百餘頁

正價金壹圓貳拾錢
郵稅金拾八錢

阿非利加洲

紙數三百餘頁

正價金八拾錢
郵稅金八錢

亞洲清國地理

紙數四百餘頁

正價金壹圓貳拾錢
郵稅金拾貳錢

亞洲韓國地理

紙數貳百餘頁

正價金六拾錢
郵稅金八錢

亞洲露領亞細亞
亞洲中央亞細亞其他

紙數三百餘頁

正價金壹拾二錢
郵稅金拾錢

最近の調査に基づける精細なる邦文世界大地理書なきは從來地理教育界の遺憾とする處本書は即ち歐米學者の著書を基礎とし各國の地理的形勢政治的國勢文明的進歩其他自然及人事の勢力消長の關係を最も詳密に記述したれば文部省教員檢定に應ずるもの地理學教育に従ふもの及一般地理學研究者の參考として當今隨一に推すべきは敢て私言にあらず其卷帙の尠然たる以て其材料の如何に豊富なるかを知るべく地理學研究者は固より苟くも活ける世界の現勢を窺はんとするものは本書に由て得る處必ずや多大なるべし

陸軍步兵中佐 守田利遠氏編述

滿洲地誌

陸軍步兵中佐 守田利遠氏編述

滿洲要覽

矢津昌永、樺島駒次、杉浦隆次、增山明 四氏共著

世界物產地誌

高等師範學校 兼陸軍教授 矢津昌永氏著

日本政治地理

陸軍步兵中佐 三原辰次氏校閱
陸軍步兵大尉 山縣初男氏編著

西藏通覽

紙數千八百餘頁全四冊
菊判洋裝背皮函入
正價金五圓五拾錢
郵稅內地金四拾錢
清野金六拾錢

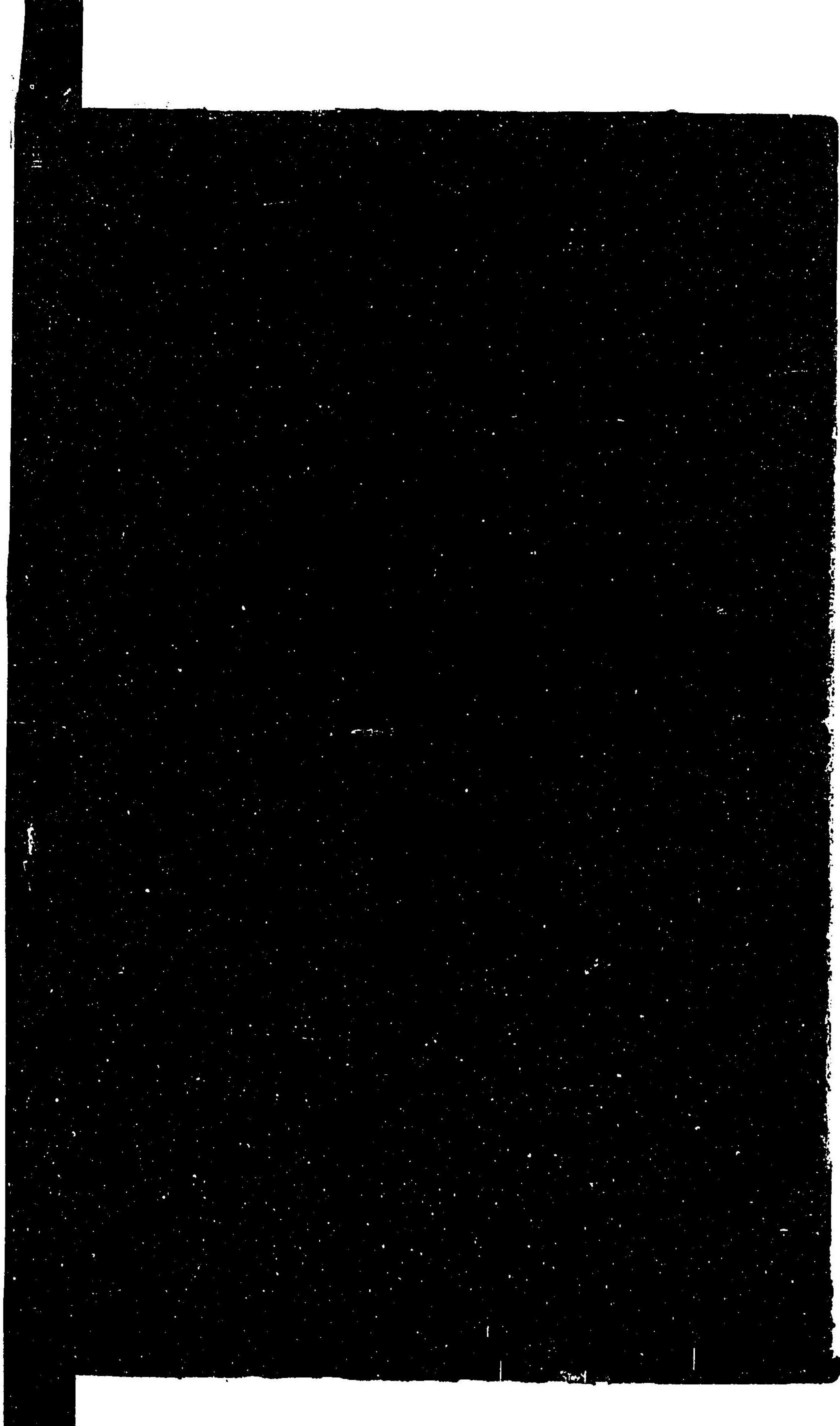
紙數五百餘頁全壹冊
菊判洋裝全壹冊
正價金貳圓五拾錢
郵稅金拾八錢

紙數七百餘頁
菊判洋裝全壹冊
正價金拾貳圓
郵稅金拾八錢

菊判總布經全一冊
著色精圖數葉插入
正價金壹圓三拾錢
郵稅金拾一錢

紙數三百餘頁全壹冊
菊判洋裝全壹冊
正價金壹圓六十五錢
郵稅金拾二錢

77
183





026972-000-9

77-183

南亞米利加洲 (高等地理)

矢津 昌永/著

M41

ADG-0101

